

第1回 知事公邸のあり方に関する有識者会議 議事概要

1 日時：令和8年6月23日（火）15：30～17：00

2 場所：知事公邸

3 出席委員

植村 佳史	高知県建築士会会長
小林 達司	高知県銀行協会会長
田中 佐知	田中法律事務所弁護士
中澤 佐紀子	高知商工会議所女性会会長
八田 章光	高知工科大学副学長（教育担当）

4 内容

(1) 知事挨拶

知事が挨拶を行いました。

(2) 知事公邸見学

公邸内の見学を行いました。（庭園を含み、私邸は除く）

(3) 座長選任

互選により、小林委員が座長に選任されました。

(4) 概要及び現状説明

事務局から資料1から8に沿って、知事公邸の概要や現状の説明を行いました。

(5) 意見交換

- ・全体として「公邸」と呼ぶ一方で、そのうちの「公邸部分」と呼ぶ部分と、知事がお住まいの「私邸部分」と呼ぶ部分があり、この分け方は名前が少しややこしい。例えば「公的な行事を行う公邸」と「知事の宿舎」の部分、などと分けた方がイメージしやすいのではないか。
- ・現在、公的な行事はそれほど頻繁ではなく、ホテル等、他の会場もあるということであれば、「公的な行事を行う公邸」という意味での公邸的な部分はもうあまり必要ないのではないか、という印象を受けた。
- ・「公的な行事を行う公邸」としては、ホテルの方が管理が行き届いている。対応するスタッフについても、知事公邸で行う場合には専門のスタッフが行うわけではなく、ホテルの方がそういった行事やホスピタリティに長けた方が準備、対応できる。
- ・建物がかなり古い。仮に建て直しをしたとして、その費用や維持費は県民が税金で補わなければならない、県民がそれを望んでいるかについては懐疑的だ。県民としては他にもっと税金を充ててもらいたい部分があるだろう。
- ・セキュリティに関しても、何があるか分からない物騒な世の中なので、マンションの方がより良いのではないか。
- ・家族構成は知事によっても、またそのときどきによっても変わるものであり、それに

伴って生活スタイルも変わるため、その都度対応できるマンションの方が自由度が高いのではないか。

- ・費用対効果は第一に念頭に置かなければならない。
- ・時代の変化とともに近隣にも高層のマンションが増えてきており、高い場所から見れば公邸内の様子が見えてしまうという状況にもある。セキュリティ確保については、そういったことも含めて考えていかなければならないのではないか。
- ・高知の場合は災害が起こることも想定され、いざその災害が起こった際には、知事が指揮権限を行使しなければならない場面も多々あることから、知事が安全に移動できることも求められるだろう。そういった視点も含めて、知事がどこに住むべきかを検討していく必要があると考えている。
- ・知事公舎として使われてきたこの歴史というものを、もう一度見直すことも非常に大事ではないか。
- ・これまでいろいろなお客様を迎え入れてきており、また県庁とも近く、知事がここにおる、お客様がここにおる、と親近感が湧くような地域ではないかと思う。今はAIも発展しいろいろなものがどんどんと新しいものになっていっているが、「まちの公舎」という歴史を見直して、もし仮に知事が別のところに移るとしても、この建物で何か別の用途が生まれればいいかな、という思いは正直ある。今後また検討していきたい。
- ・見学をしてみて、かなり維持費がかかるのではないかと率直に思った。また、敷地も広く、やはりセキュリティ確保もかなり大変そうだが、現在は機械警備のみで、警備員がいないと聞いて驚いた。
- ・今後、老朽化に伴いますます維持費がかさんでくるだろう。一方で、歴史的に意義のある建物ではないかという意見もある。すべての負担を担うことになる県民にとって、この両方をどういうふうにバランスを取っていくのが良いのか、皆さんからご意見をお聞きしながらまとめていきたい。